

第36回会長の時間 おイネ賞事業につきまして 平成29年4月27日

4月23日には、藤中年度の地区研修・協議会が広島で開催され、いよいよ次年度がスタートしておりますが、ご参加されました皆様、大変お疲れ様でした。

本日の夜間例会は、母子健康月間にふさわしいタイトルで金子法子先生が卓話をされますが、ご存じのように、金子先生は、昨年12月に、愛媛県西予市で開催されました、第5回おイネ賞事業表彰式で、日本医師会が推薦する全国奨励賞を受賞されました。

おイネ賞事業は、シーボルトの娘である楠本イネを顕彰し、その志を継ぎ、医学研究や医療活動に躍進する女性を表彰して奨励することを目的にして、平成24年に創設されました。本日は、このおイネ、すなわち日本初の産科女医となった楠本イネについてお話しします。

おイネは、1827年（文政10年）の生まれで、父は、ドイツ人医師の「シーボルト」で、母は、丸山町遊女であった「楠本滝」の子として、長崎で生まれました。イネが2歳の時に父のシーボルトが日本地図を国外へ持ち出したことが発覚して国外追放となったという、いわゆるシーボルト事件は歴史上有名です。イネは、西予市宇和町で、シーボルト門下生の町医者である二宮敬作から医学の基礎を学び、石井宗謙から産科を学び、村田蔵六（後の大村益次郎）からはオランダ語を学びました。後に、京都にて大村益二郎が襲撃された際には、大阪の病院でイネが看護しその最期を看取ったという記録が残っています。

1858年（安政5年）の日蘭通商修好条約によって追放処分が取り消され、1859年（安政6年）に再来日した父のシーボルトと長崎で再会し、イネは父から西洋医学（蘭学）を学びました。シーボルトは、長崎の鳴滝に住居を構えて昔の門下生やイネと交流し、日本研究を続け、1861年（文久元年）には幕府に招かれ外交顧問になっています。

その後、1875年（明治8年）に医術開業試験制度が始まり、女性であったイネには受験資格がなかったため、東京の医院を閉鎖し長崎に帰郷しました。1884年（明治17年）、医術開業試験の門戸が女性にも開かれましたが、既に57歳になっていたため合格の望みは薄いと判断し以後は産婆として開業しました。

なお、イネは生涯独身でしたが、産科を学んだ石井宗謙に船内でレイプされて、娘のタダを生んでいます。娘のタダは、後に楠本高子と名を改めましたが、その美しい容貌から、後に明治の美人写真を見ていた松本零士が『銀河鉄道999』のメーテルや『宇宙戦艦ヤマト』のスターシャのモデルにしたと言われております。少女時代を西予市で過ごしたイネは、混血児という境遇や女性が医学を志すことを理解されない閉鎖的な時代に、逆境を乗り越え志を貫き、日本初の産

科女医となり、その後産科医として活躍しました。西予市は、小さい町ですが、楠本イネが残した功績を基にして「日本初の産科女医発祥の地」として発信し、女性医師を奨励するために、お伊ネ賞事業を立ち上げました。本日は、金子先生が受賞された、お伊ネ賞のお伊ネについてお話をしました。